

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 ひびきが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	言語知識理解は基礎ができていた。物語を読んで内容を深く考えたり、書く力を問われたりする問題に課題があった。読む力や書く力をつける必要がある。
	よくできた問題	漢字を正しく書くことについては、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	ローマ字を読んだり、書いたりする問題については、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	話すこと・聞くことについては、基礎的な力が付いてきている。目的や意図に応じて、自分の考えを筋道立てて書いたり、目的に応じて効果的な読み方を工夫したりするなどの問題に課題がある。
	よくできた問題	グラフを基に分かったことを的確に書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、表を正しく基に自分の考えを書く問題の正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	数と計算領域において、基礎的な問題がよく理解できていた。割合の問題に課題があった。その他の領域についても課題があった。
	よくできた問題	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	小数と整数の数の大小関係を比べる問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	数と計算領域において、文章問題がよくできていた。数量関係をとらえる問題など、問題文の記述が複雑になると無回答率も増え、課題である。
	よくできた問題	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	ハードルの数とインターバルの数の関係を捉えて解く問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・テレビやビデオ、DVDの視聴時間が長い(3時間以上約半数)こともあり、10時前に寝る児童が約25%と少なく、就寝時刻が全国と比較して遅い。 ・宿題は、必ずすると答えている児童がほとんどである。しかし、家で自分で計画を立てて勉強する児童が全国に比べて少なく、一日1時間以上勉強する児童も少ない。 ・授業においては、ノートにめあてとまとめを書いて学習している。しかし、授業で発表する時に上手く伝えるように話の組み立てを工夫することは、苦手ととらえている。同様に、自分の考えを書くときに考えの理由が分かるように気を付けて書くことを苦手と感じている児童も多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・算数では、計算の仕方や自分の考えを図や式や言葉を使って表現する時間をとる。自分の考えを発表し、みんなで話し合うことで、課題を解決するような学習を行う。 ・高学年においては、週に一回ワークシートに新聞記事を読んだ感想や場面を想像したことを書くなどの学習に取り組ませる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・自分で計画を立てて、一日1時間以上学習することの推進 ・早寝・早起き・朝ごはんの励行
--